

— 現在の研究発表ともとにして(被服学) —

郡女大家政 ○矢野良一 川股浩 門馬寿子 伊藤泉 田部井トキ 田辺真弓

目的 関口らは家政学に人間守護の概念を導入し、前回の発表会においては川股らは、この概念と被服材料学の研究方向性より見て妥当であるかについて検討を行った。今回は現状の被服学に関する多くの研究についてその内容、方法に関し、上記価値(人間守護)の点より探索を試みるものである。

方法 このため演者らは、過去における本家政学会総会(第30～第31回)の研究発表要旨より被服関係の研究発表を取上げ、先づ第一段階として、被服の目的たる1)環境より身体を守ること、2)美しく装うこと、3)社会性、文化性を求めること、という観点より研究を捉え、特に身体の保護に関しては更に詳しく分類、分析し、又一方、研究方法につき、基礎的研究、応用的研究として分け、この面よりの検討も行った。

結果 被服に関する研究は、内容的に見た場合、被服本来の主目的である身体を守ることに関連した研究が大部分を占めていた。研究方法の面より見た場合、大多数が自然科学的手法ととっていることは当然であるが、基礎的研究、応用的研究の面よりも分けてみた。これらの結果を人間守護の立場にたって今後検討してゆきたい。